

住み慣れた地域で生活するために

第5期介護保険事業計画の策定に向けて

介護保険による保険給付を円滑に行うため、市町村は3年を1期とした「介護保険事業計画」を策定することが介護保険法により義務付けられており、この計画に基づき、介護保険サービス等の種類・ごとの見込み量や介護保険料等が決定されています。現在、本市でも平成24年度からの第5期計画の策定が進められています。

問 第5期介護保険事業計画で、どのようなサービスを進めようとしているのか。

答 国は第5期計画において、将来団塊世代が後期高齢者となることを見据え、高齢者が要介護状態となっても、できるだけ住み慣れた地域で生活ができる

よう地域包括ケアの実現を目指すこととしている。

本市では、定期巡回・随時対応型サービスといった新たな地域密着型サービスや、小規模多機能型居宅介護と訪問看護などの組み合わせによる複合型サービスなどについて、実情に沿った形で展開するなどの工夫が必要と考えている。

問 第5期計画における介護保険料の見直しについて聞く。

答 国では、基金の取り崩し等による第4期保険料の軽減効果が終了することや、認定者数の増加などを踏まえ、保険料は全国平均で1000円程度上昇すると見込んでいる。

本市では、こうした要因に加

え、第4期計画期間に、特別養護老人ホーム330床をはじめとした施設・居住系サービスや認知症対応型デイサービスなどの在宅サービスの整備を進めたこと等から、介護保険料の上昇は避けられないと考えている。

【介護支援ボランティア制度】

介護支援ボランティア制度は、高齢者が介護保険施設等でボランティア活動を行った場合に、「ポイント」が得られ、たまつた「ポイント」に応じて換金できる制度です。

この制度の導入により、介護予防効果に加え、地域の活性化や住民同士のつながりの強化が期待されています。

問 介護支援ボランティア制度を導入する考えがないか聞く。

答 本市では、いきいき百歳今の政治には全体のビジョンがなさ過ぎるのです。同じ目標に向かってそれぞれが努力をしていかなければ、力は発揮されません。市民の皆さまにはそのような視点で高知市政を見ていただきたいと思います。50年先、100年先どんなまちになればそこに暮らす人々が幸せなのか。その目標実現のために選挙があつて、政治家がいるのだとあえて言わせていただきたい。

(議会広報委員 浜口卓也)



憩

何事も原点となる中心があ

「龍馬プロジェクト」～全国につながる絆～

昨年(2012年)は東日本大震災という厳しい状況が国全体を覆いました。その厳しさの一つ一つを乗り越えるたびに「絆」という言葉が私たちの心に刻まれていきました。切っても切れない人と人のつながりが「絆」だと思っています。

私にも全国に志を同じくする仲間がいます。それは「龍馬プロジェクト」という若手議員のネットワークです。大阪府の吹田市議会議員である神谷宗幣氏を中心として全国

って全体に広がっていくものです。部分ばかりをクロウズアップしては、気付いたときにはゆがんだ形になってしまいます。自戒の念も込め

問 具体的な整備改善計画について聞く。

答 土地区画整理事業により、道路や公園など公共施設の整備改善や宅地の利用増進を図ると

体操のサポーターをはじめ、地域で多くの方がボランティア活動をしているが、団塊世代の参加が少ない状況が指摘されている。

高齢化が進む中、地域における住民同士のつながりが希薄化

「あんしんのまち」づくりを旭駅周辺市街地整備

旭駅周辺は、情緒ある町並みが残る一方、古い木造住宅が密集し狭い道路が多いなど、防災上の課題が残されている地区もあります。本市では、防災性の向上を図るとともに、より良い住環境の形成に向けたまちづくりの検討を進めるため、土地区画整理事業等の手法を用いた整備方針を策定しました。

問 旭駅周辺の整備に向けたこれまでの経過と今後のスケジュールについて聞く。

答 平成19年度まで密集市街地の改善方法を検討するための意識調査を実施し、20年度に全地域を対象とした勉強会を行い、特に災害時に防災面で課題のある下島町と中須賀町から優先的に整備することとした。

問 下島町地区の住民との協議をどのように進めているか聞く。

答 平成20・21年度に、9回のワークショップを行い、まちづくり計画素案を作成した。22年度には地区住民からより多くの意見等を伺うため、全戸を対象に戸別訪問を実施するとともに、地域の中にまちづくり窓口を開設した。

また、23年度に下島町地区まちづくり協議会が設立されたことから、まちづくり計画案についてご意見を頂いている。

今後もし引き続きまちづくり協議会の活動やまちづくり窓口を通じて、住民とともに安心・安全のまちづくりに努めていく。